

宮崎県日向市（国内 44 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 21 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は高台に位置し、周囲は雑木林等に囲まれ、ソーラーパネル及び養鶏場が存在している。
- ② 当該農場から約 2.5km の河川において、カルガモやヒドリガモ等のカモ類約 300 羽、ハクセキレイやオオバン数羽を確認した。
- ③ 当該農場は平飼いの開放鶏舎 4 棟からなり、発生時は全棟で肉用鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（最も西側に位置。通報時 42 日齢）の 1 日当たりの通常の死亡羽数は 7 羽程度のところ、20 日朝の健康観察時に 40 羽以上の死亡を確認したとのこと。死亡鶏は散在していたが、鶏舎中央から奥側にかけて多い印象を受けたとのこと。
- ② 死亡鶏の増加を受けて、飼養管理者が系列会社の指導員に連絡し、指導員が簡易検査を実施したところ陽性となったことから、家畜保健衛生所に連絡したとのこと。
- ③ 通報から調査時点までに死亡鶏等の急増等はなかったとのこと。疫学調査時、発生鶏舎以外の鶏舎では特段の異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、7 名の従業員が勤務しており、シフト勤務のため、通常は 3 名体制とのこと。また、同市内の関連農場も同一の従業員で管理しているとのこと。
- ② 飼養管理者によれば、鶏舎ごとの担当者は特に決まっておらず、3 名で協力して作業を行っているとのこと。
- ③ 系列会社の指導員が定期的に来場するが、鳥インフルエンザのシーズンが始まってからは、巡回を控えているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域出入口には車両消毒ゲート及び立入禁止の看板が設置されていた。農場裏手の斜面上に存在する別農場との間には柵等の特段の遮蔽物はなかった。
- ② 飼養管理者によれば、車両出入口及び鶏舎周囲には定期的に消石灰を散布していたとのこと。
- ③ 従業員は、出勤時、自家用車を衛生管理区域外に駐車し、徒歩で衛生管理区域内の更衣室兼事務所に移動し、そこで、衛生管理区域専用の長靴、作業着、ゴム手袋を着用し、手指消毒を実施するとのこと。
- ④ 従業員が各鶏舎に入る際には、鶏舎内サービスエリアに設置された踏込み消毒槽（逆性石けん、週 1 回程度交換）で長靴を消毒し、鶏舎専用長靴に履き替え、アルコールで手指消毒を行うとのこと。
- ⑤ 衛生管理区域内に入る外来車両については、運転手が、押ボタン式消毒ゲート（側面及び下面から逆性石けんを噴射）で自ら消毒するとのこと。
- ⑥ 農場内で作業を行う外来業者（飼料業者、出荷業者、導入業者、敷料業者、鶏糞搬出業者、動物用医薬品業者）は各自が持参した長靴に履き替え、手指の洗浄及び消毒を実施するとのこと。なお、普段来場しない電気系統の修理業者等には、農場側が専用長靴を用意するとのこと。

- ⑦ 全鶏舎で同日齢の鶏が飼養されており、農場全体のオールイン・オールアウト後に除糞や洗浄・消毒を実施し、2～3週間程度の空舎期間を設けているとのこと。
- ⑧ 死亡鶏は毎朝の巡回時に各鶏舎から集めて、衛生管理区域出入口外側のペールに保管し、毎日、死亡鳥回収業者が車で収集し、化製処理場へ運搬するとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎では、鶏舎側壁上部から入気し、鶏舎奥側の換気扇から排気されており、鶏舎手前側の換気扇を稼働することで、舎内全体の空気循環も行っている。
- ⑩ 発生鶏舎の換気扇外部にはシャッターが設置されており、側面開口部は2 cm程度の亀甲金網が張られ、その外側はロールカーテンで被覆されているが、金網にはネズミ等が侵入可能な破損が複数認められた。また、鶏舎の側面土台コンクリートが一部破損しており、小動物や野鳥の侵入可能な状態であった。
- ⑪ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、全ての鶏舎で鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っていた。飼養鶏には水道水を給与しているとのこと。
- ⑫ 敷料は敷料運搬業者は各鶏舎のサービスエリアまで立ち入って搬入するとのこと。直近の搬入は12月19日とのこと。
- ⑬ 重機や器材などの他農場との共用は行っていないとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場周辺でシカを目撃することがあるが、農場敷地内では野生動物は見ないとのこと。ただし、農場敷地内でイノシシの掘返し跡が見られるため、電気柵を設置しているとのことだったが、調査時、一部に倒伏を認めた。
- ② 野鳥は農場周囲でよく見るが、鶏舎内では見たことがないとのこと。調査時、野鳥や野鳥のものと思われる糞を鶏舎周囲で確認した。
- ③ 飼養期間中は鶏舎内ではネズミは見ないとのことだが、ネズミ対策として空舎期間中は殺鼠剤を置いているとのこと。調査時、発生鶏舎では断熱材のかじり跡を認めた。

(以上)